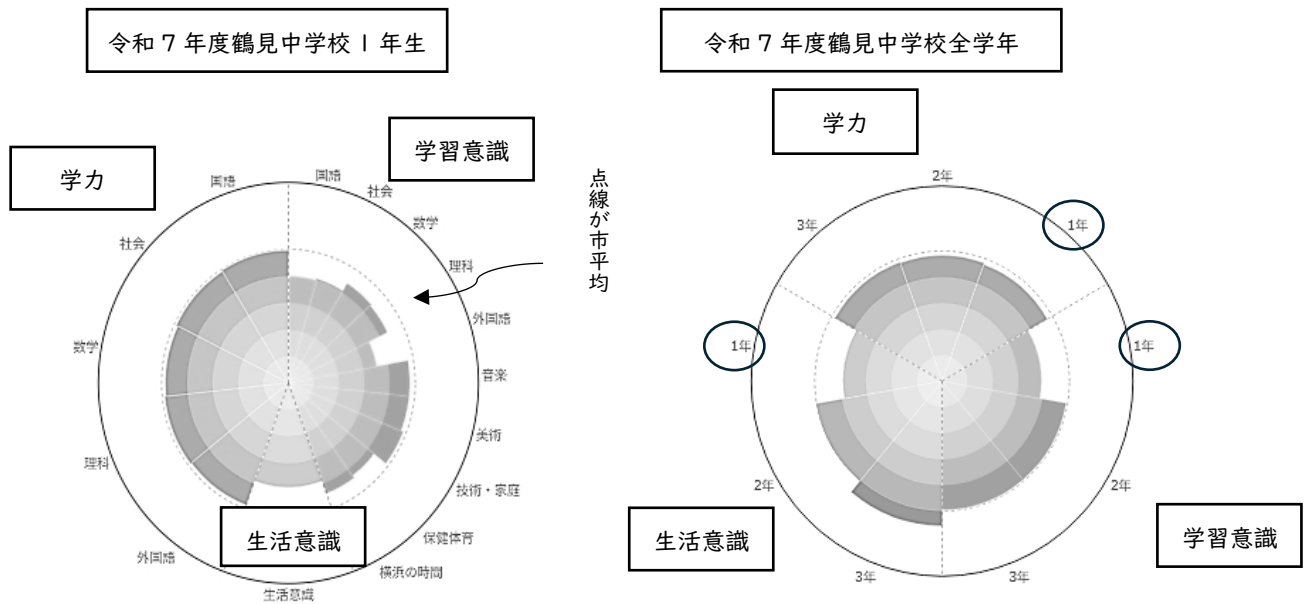


令和7年度 1学年 横浜市学力・学習状況調査 本校の結果

令和7年5月9日（金）に横浜市立中学校の生徒を対象に実施された横浜市学力・学習状況調査につきまして、本校の1年生に関する結果の概要をお知らせします。



(1) 1学年の全体の状況

令和7年5月に行われたこの調査では、国語、社会、数学、理科、英語の学力については、横浜市全体の平均よりやや下回っている状況である。また、生活意識がかなり低くなっている。学習意識については、音楽、美術、技術・家庭が市の平均に近いが、その他教科では、かなり低くなっている。1年生の学力は、本校の2・3年生と同様に横浜市の平均と同じくらいという状況であるが、本校の2・3年生と比べても生活意識と学習意識がかなり低く、生活意識向上と学習意識向上が課題であることがわかる。

(2) 1学年の課題に向けた取り組み

- 日々の学校生活や学習活動を通して、より一層、学校生活が充実したものになるよう努力していきます。
- 生徒一人ひとりの良さを認め、自己肯定感を高める授業づくりを目指し、ICTを効果的に使ったり、自分の考えを発表する機会を増やしたりするなどの授業づくり、学校づくりを推進します。
- 生徒同士の学び合いを通じて、自分の思いや考えを広げ、深めることができる協働的な学びの充実を図ります。
- 人に手をさしのべる気持ちを行動につなげていけるよう、道徳や学活、教科のグループ学習等の中で働きかけていきます。人に感謝されることで交友関係が広がり、自己有用感が高められると考えます。
- 読書が人生を豊かにし、問題を解決する力につながるという実感をもたせられるよう、読書の機会を増やしていきます。ご家庭でも、読書の習慣が身に付くようお声がけいただければ幸いです。

(3) 各教科の状況

- 国語科：学力はどの観点においても市の平均とほぼ同様である。しかし、「複数の情報を用いて、自分の考えをまとめる」という設問では、正答が54.6%であり、肯定的に解答した生徒の割合が市は86.6%に対し、79.6%と市の平均より低い状況である。また、国語意識を問う質問「言葉のもつよさを感じながら、国語科の学習をしていますか。」では、肯定的に解答した生徒の割合が市の86.6%に対し、79.6%と低い状況である。
- 社会科：学力はどの内容においても市の平均とほぼ同様である。社会科意識を問う質問「社会科の学習では、調べた事実をもとに考え、問題を解決しようとしていますか。」では、「している」と回答した生徒の割合は市の平均40.0%に対し、28.0%と低い状況である。
- 数学科：学力はどの内容においても市の平均とほぼ同様である。数学科意識を問う質問「算数科や数学科の学習では、答えを確かめたり、求め方をふり返ってよりよい方法がないかを考えたりしていますか。」では、肯定的に回答した生徒の割合は市の平均とほぼ同様であったが、「している」と回答した生徒の割合は市の平均より低い状況である。
- 理科：学力はどの内容においても市の平均に近い正答率になっている。理科意識を問う質問「理科の学習では、観察、実験を通して問題を解決しようとしていますか。」では、肯定的に回答した生徒の割合は市の平均より多かったが、「している」と回答した生徒の割合は市の平均35.8%に対し、45.9%と低い状況である。
- 外国語科：第1学年は「読むこと」が市の平均を上回っている。一方で「書くこと」と「聞くこと」と「外国語科意識」は市の平均を下回っている。なかでも「外国語科意識」は特に下回っており、学習意識の向上が課題である。

(4) 教科担当からのアドバイス

- 国語科：身のまわりの事柄や国内外の社会的ニュースに目を向け、複数の情報を読み取り、自分の考えをまとめる力をつけましょう。国語力の基礎基本となる語彙を増やしていきましょう。さらに、1年生は読書の時間を増やし、文学的な作品に触れるようにしましょう。
- 社会科：地理分野では、「なぜ」「どこで」という視点で学習内容を深めるために、学習する内容とあわせて地図で確認することを習慣化しましょう。歴史分野では、「なぜ」「いつ」「だれが」という視点で学習内容を深めるために、年表などを活用して整理することを習慣化しましょう。また、用語などの知識は、配付している一問一答集やワークを繰り返すことで定着させましょう。授業では、課題を通して知識を体系的に捉えたり、資料を活用したりする力を伸ばしていきましょう。特に、協働的な学習場面においては、お互いに相手の意見を尊重しあう責任感と自分の意見を修正していく勇気を身につけていきましょう。
- 数学科：積み重ねの教科なので、これまでの学習内容を復習しながら、ワーク等を利用して繰り返し問題を解きましょう。分からないことはできるだけ早く、先生や友だちに相談してそのままにしないようにしましょう。
- 理科：実験・観察において、目的を意識しながらレポートづくりを丁寧に行うとともに、授業での発問をしっかりとらえ、「自ら考える姿勢」、「事象をしっかりとらえる力」を身につけましょう。また、教科書や教材を通して、学んだことを生活に結び付けて考えるようにしましょう。
- 外国語科：英語は教科である前に言語であり、コミュニケーションのツールであるため、たくさん触れて、粘り強く使うことが大切です。英語を通じて言語や文化に対する理解を深め、間違いを恐れず積極的にコミュニケーションを図りましょう。